

埋文 さ いたま リポート

2025

年報 45

[令和6年度版]



塚原南遺跡



金久保内出遺跡



宮前遺跡

ごあいさつ

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団は、埼玉県の出資により昭和五十五年に設立された法人で、今年で45周年を迎えます。

設立当初、本部事務所は浦和市（当時）にありましたが、昭和六十二年に大里地域に整理事務所を開設し、その後、平成二年には本部事務所全体が現在地に移転し、以降今年で38年が経過します。

昭和六十二年当時の行政区域であつた大里郡大里村は合併し、現在、熊谷市となっています。熊谷市はたいへん暑い地域だと思われていますが、荒川の左岸にある熊谷市の中心部とは違い、大里地域は荒川の右岸にあり、比企丘陵と荒川に挟まれた、水田や畑が広がる緑豊かで、風がさわやかな場所です。

当事業団は、ここ大里地域の皆様に38年の間支えながら、埼玉県の遺跡の発掘調査に尽力して参りました。地域の皆様の長年にわたる御支援に心から感謝を申し上げます。事業団では、県内各地域で遺跡の発掘調査を行っていますが、ここ大里地域の本部事務所では、日々職員が、発掘した遺物の整理や記録、保存作業等にあたっています。遺跡から発見された土器や石器などは、通常は施設内の収蔵庫で一部を御覧いただくことができますが、今年は改修工事のため、お見せすることが出来なくなっています。改修終了後には、近くにお寄りの際などに足をお運びいただければと思います。

近年は、暑い夏が続いているが、今年もさらに暑い夏となっています。日本の平均気温は、長期的に上昇し、それに伴い、真夏日、猛暑日、熱帯夜の日数が増加しています。熊谷市では、年間の猛暑日数が過去最高となりました。当事業団では、このような過酷な環境でも、発掘調査を行っていますが、作業する職員の安全を確保しながら、発掘調査で正確な記録保存を行うことが、大きな課題となっています。

発掘調査の成果は、埋蔵文化財として保存され、活用されます。私たち公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の目的である、過去からの「物」を保存し、あるいは記録して、後世に残していく仕事は、未来に向かって進もうとする人の役に立つことなどの思いを新たに、これからも一層努力して参ります。

さて、令和六年度は、14遺跡で発掘調査を行いました。

塚原南遺跡（東松山市）からは、柄鏡形の敷石住居跡が2軒見つかりました。張り

出した出入口部分には、川原石が敷き詰められていました。これまでに旧石器時代から中世までの遺構や遺物が調査された宮前遺跡（鴻巣市）からは、古墳時代から平安時代の住居跡が見つかりました。金久保内出遺跡（上里町）や丹生遺跡（上里町）からも、古墳時代から平安時代の住居跡が数多く見つかりました。また、清水南遺跡（上里町）や金久保内出遺跡からは、中世の遺構や遺物が見つかりました。出土した瓦などから、中世の寺院が存在していた可能性が考えられています。

整理事業では、発掘調査を終えた遺跡について、その成果を報告書にまとめる作業を行いました。令和六年度は、道原遺跡（羽生市）、塚原南遺跡（東松山市）、小久住遺跡（飯能市）の報告書を刊行しました。塚原南遺跡の報告書では、古墳時代のガラス小玉や、珍しい皮袋形土器が報告されました。いずれの事業でも、当時を復元するための貴重な成果をみなさまにお届けすることができました。

埋蔵文化財に関する普及事業では、小学生を主な対象とした学習支援を小中学校・特別支援学校42校で実施しました。「古代から教室へのメッセージ」と称するこの事業は、当事業団職員が学校の授業等に出向いて、実物の土器や石器に子どもたちが直接触れる機会を提供するものであり、各学校から好評をいただいております。令和六年度からは、特別支援学校でも出前授業を開始しました。

このほか、発掘調査の成果をいち早く公開する「遺跡見学会」、大型商業施設などにおいて展示を行う「ほるたま展」、発掘成果を遺跡の地元に還元する「里帰り展」、里帰り展とコラボした長竹遺跡をテーマにした「ほるたまセミナー」などを実施し、多くの方々に御来場、御参加いただきました。御協力いただきました皆様には、心より御礼申し上げます。

さらには、博物館や市町村で実施される各種講座への職員派遣や大学生対象のオーブンカンパニーなど、文化財保護に係る普及啓発、人材育成支援にも取り組んでいるところです。

本書は、当事業団が令和六年度に実施しました事業の概要をわかりやすくまとめたものです。多くの皆様に、研究や学びの参考として御活用いただけましたら幸いです。

令和七年十月



I 目次

I 令和六年度に調査をした遺跡

船川遺跡（第3次）行田市
宅地遺跡（第6次）行田市

塚原南遺跡（第2次）東松山市

平右衛門遺跡（第6次）鴻巣市

宮前遺跡（第5次）鴻巣市

金久保内出遺跡（第4次）上里町

清水南遺跡（第3次）上里町

丹生遺跡（第1次）上里町

虫塚（第1次）・新石衛門遺跡（第8次）鶴ヶ島市

志久遺跡（第2次）・赤羽遺跡（第2次）伊奈町

北稻塚第II遺跡（第3次）上里町

八木上遺跡（第8次）狭山市

II 令和六年度に刊行された報告書

III 発掘資料の保存と活用

III 発掘資料の保存と活用

1 保存・活用事業（埼玉県収蔵埋蔵文化財保存活用業務委託事業）

2 その他の事業

IV 事業団の概要

1 設立の趣旨と目的

2 略沿革

3 組織の概要

I 令和六年度に調査をした遺跡

船川遺跡（第3次）行田市



空から見た船川遺跡（西から）

【立地と環境】

船川遺跡は利根川右岸に位置し、北側に利根川を臨む。秩父鉄道武州荒木駅から北北西約3kmに所在し、妻沼低地から加須低地に広がる沖積地に形成された自然堤防上に立地する。

船川遺跡の周辺には、古墳時代から近世にかけての遺跡がある。南側の大稻荷古墳群は、径約20mの浅間塚古墳（円墳）が現存しているが、号墳は径26mの円墳である。弧を描いた円筒埴輪列が発見され、6世紀初頭の築造とされている。2号墳は1号墳の南東57mの水田下より、石室とみられる細長い礫（れき）群が検出された。大刀、鉄鎌（てつまん）、刀子（とうす）、轡（くわ）が出土し、5世紀末の築造とされている。

船川遺跡東側の砂原遺跡は令和4・5年度に発掘調査が行われ、古墳時代前期の土壙などが検出された。

また、奈良・平安時代の住居跡、土壙、井戸跡、溝跡や中・近世の土壙、井戸跡、溝跡等も検出された。

船川遺跡と砂原遺跡に挟まれた行田市立須加小学校跡地や長光寺付近は、須加城跡とされている。『鎌倉九代後記』や『鎌倉大草子』などには「宿城」と記載があるものの、築城や廃城の年代は判然としない。また城跡の遺構も全く確認されていない。

船川遺跡西側の立野遺跡では令和3年度に発掘調査が行われ、縄文時代のピットや遺物包含層、古墳時代の方形周溝墓、平安時代の住居跡や

土壙、中・近世の井戸跡や溝跡等が検出された。

また立野遺跡の東側に位置する酒巻古墳群では、前方後円墳3基、円墳20基が確認されている。酒巻14号墳の出土品は、一括して重要文化財に指定されている。酒巻古墳群の北側に位置する宅地遺跡は6次にわたる発掘調査が行われ、酒巻古墳群と同時期の集落跡が展開していることがわかっている。

【発見された遺構】

古墳時代

住居跡5軒、土壙4基、溝跡1条、ピット5基、遺物包含層1か所が発見された。

第14号住居跡は今回の調査で最も古く、5世紀中頃から後半頃に位置付けられる。一辺約7mと大型で、南辺の東寄りにカマドが付設されていた。残存状況は良くないものの、袖部の粘土が残る。煙道部は検出されなかつたが、縦煙道を持つ初期カマドとみられる。上層から大量の土師器が出土したが、住居の廃絶後に持ち込まれた可能性が高い。また、南辺やや西寄りの焼土と粘土の残骸は、カマドの可能性



第16号住居跡（古墳時代）

がある。さらに北東付近には、約1・2mの樋形の範囲に焼土が集中していた。周囲から大

■所在地

行田市大字須加4464-1他

■実施期間(事業者)

令和6年4月～令和7年3月
(国土交通省関東地方整備局)

■調査面積

1,070.45m²

■遺跡の種別

集落跡

■主な遺構

古墳（住居跡5・土壙4・溝跡1・ピット5・遺物包含層1）
飛鳥・平安（住居跡3・土壙1・溝跡1）
中・近世（竪穴状遺構1・土壙4・井戸跡5・集石遺構1）

I 令和六年度に調査をした遺跡



第12号住居跡カマド（古墳時代）

した状態で、有蓋短頸壺は割れて住居跡内の複数地点から出土した。剥がれた脚部と蓋は出土していない。ほかに、碧玉製の管玉、滑石製の勾玉形模造品、基部が有袋の鉄製鑿が出土した。

第16号住居跡は長軸約7m、南辺の中央にカマドが設置されている。燃焼部には、逆位に置かれた土師器の高壊が支脚に転用されていた。煙道は一度造り替えられている。時期は5世紀後半頃から6世紀初頭頃に位置付けられる。大量の遺物が出土し、土師器の高壊や壊が多い。壊3点が高壊に重ねられた状態が2セツトみられた。須恵器の短脚の無蓋高壊は床面上に横転していなかった。

調査区の西側は谷状に落ち込み、5世紀から7世紀の遺物包含層が堆積していた。包含層下から第14号住居跡が検出されているため、5世紀後半以降に埋没が始まり、7世紀代にはほぼ埋まりきったとみられる。

飛鳥時代

調査区西側の遺物包含層際に住居跡が集中する。いずれも重複し、広範囲に集落が展開していた様子はみられない。

第7号住居跡は、カマド天井の高架芯材に綠泥片岩が用いられていた。この綠泥片岩は、本来は古墳の石室に用いられていたとみられる。全体的に残存状況が悪く、遺物は破片を主体にし、雁股鏡も出土した。

第8号住居跡は重複する第7号

住居跡に先行する。残存状況が悪く、カマドも不明瞭である。西側に角閃石安山岩が複数まとまり、床面には焼土と炭層が広がる。また、滑石製勾玉形模造品も出土し

量の土師器が出土し、炉跡の可能性もある。建替えの痕跡は把握できていないが、複数の火処が存在していた可能性がある。

第16号住居跡は長軸約7m、南辺の中央にカマドが設置されている。燃焼部には、逆位に置かれた土師器の高壊が支脚に転用されていた。

煙道は一度造り替えられている。時期は5世紀後半頃から6世紀初頭頃に位置付けられる。須恵器の短脚の無蓋高壊は床面上に横転していなかった。

中世の遺構は少ない。第8号井戸跡はかわらけ2点が出土し、15世紀代とみられる。

第10号井戸跡は、上層から埋没過程で混入した人物埴輪の腕部と綠泥片岩が出土した。その他、多数の井戸跡から径30cm程の角閃石安山岩などが出土した。大稻荷古墳群の古墳石室の石材を二次利用した可能性がある。また、こぶし大の角閃石安山岩、綠泥片岩や自然石が一か所に集められた集石遺構の性格はわからない。

調査区の西側は谷状に落ち込み、5世紀から7世紀の遺物包含層が堆積していた。包含層下から第14号住居跡が検出されているため、5世紀後半以降に埋没が始まり、7世紀代にはほぼ埋まりきったとみられる。

【まとめ】

船川遺跡第3次調査では、中世から古墳時代の住居跡や溝跡、井戸跡などが検出された。令和5年度の第2次調査では平安時代の住居跡が検出されていることから、長期間、集落が営まれていたことが明らかになった。一方、6世紀中頃から後半、8世紀代に希薄な時期がある。

船川遺跡は古墳時代中期にあたる5世紀中頃から集落が展開し6世紀初頭頃まで継続する。その後7世紀前半頃から、再び住居跡が構築された。

現地表面と第四面遺構検出面の比

高差は約2mあり、遺構・遺物が希薄な面も存在する。集落の断絶と復興が繰り返された、土地の履歴をうかがうことができる。

今回の発掘調査において確認された5世紀代の集落跡は、近接する大稻荷古墳群の造営時期と運動してい

る。大稻荷古墳群は、現在までに6基の古墳が確認されているが、墳丘の削平または関東造盆地運動と呼ばれる地盤沈下と利根川の洪水によて埋没しているとみられる。発掘調査が行

われた1号墳は6世紀初頭、2号墳は5世紀末とされている。1号墳では大正5年(1916)に石棺から四獸鏡、鹿角装刀子が出土し、東京帝室博物館(東京国立博物館)に寄贈された。

第14号住居跡は大稻荷2号墳と、第12号住居跡は大稻荷1号墳と同時期と想定される。また、後続する遺構から古墳の石室石材と想定される角閃石安山岩や綠泥片岩が出土していることは、未知の古墳の存在も想像させる。



第4号性格不明遺構（中世）

宅地遺跡（第6次）行田市



空から見た宅地遺跡（西から）



第3号居住跡（古墳時代）

宅地遺跡第6次調査では、古墳時代の住居跡

ありました。

【まとめ】

奈良時代の遺構は、調査区の中央付近に分布していた。第39号土壙は、古墳時代後期層の上面に堆積した青灰色シルト層を掘り込んでいた。8世紀代の須恵器壊や土師器甕が出土している。

奈良時代



第39号土壙（奈良時代）

利根川右岸の行田市酒巻地区には、6世紀前半から7世紀前半ころに當まれた酒巻古墳群が広がっている。最西端に位置する酒巻14号墳は、6世紀末に築造された径約34mの円墳である。墳丘中段のテラスには、二重の埴輪列^{はにわれつ}が巡つていた。国内唯一の旗を立てた馬形埴輪をはじめ、筒袖の服を着用した人物、褲^{くつ}をしめた力士と思われる男子など、古代朝鮮半島の関係がうかがえる埴輪が見つかった。これらは、一括して重要文化財に指定されている。

古墳時代の遺構は、調査区の東側に分布していた。第1号住居跡は東壁にカマドが付設され、周辺から土師器甕^{はしきかめ}等が大量に出土した。第2号住居跡は東壁からカマドの煙道部が約80cm伸びていたが、袖部は確認できなかった。遺物は土師器片が少量出土しているのみである。第3号住居跡は、北西壁に設置されたカマドの燃焼部が壁外に張り出し、被熱による硬化が顯著であった。煙道部



第2号土壙（古墳時代）

調査区のほぼ中央で検出された。覆土中から壺を中心とする古墳時代後期の多量の土師器、底面の中央から円板形の滑石製模^{えんばん}造品が出土した。

第1号溝跡と第2号溝跡は、1mの間隔をもちながら南北方向に並走し、重複する第2号住居跡よりも古い。

第一号性格不明遺構は、炭化物を多く含んだ黒色土層が、なだらかな傾斜をもちながら堆積していた。

や溝跡、奈良時代の土壙が検出された。

宅地遺跡のこれまでの発掘調査では、古墳時代後期の住居跡は見つかっておらず、土師器の集中出土や調査区壁面にカマド状の痕跡が確認された程度であった。今回の調査では3軒の住居跡が検出され、宅地遺跡は隣接する酒巻古墳群と同時期の集落跡と確認できた。今後の調査では、集落域の広がりや存続期間の解明が期待される。奈良時代の須恵器壊や土師器甕を出土した土壙が検出されたため、継続的に集落が展開していたこと予想される。

■ 所在地	行田市酒巻1992他
■ 実施期間(事業者)	令和6年4月～令和6年9月 (国土交通省関東地方整備局)
■ 調査面積	950.44m ²
■ 遺跡の種別	集落跡
■ 主な遺構	古墳(住居跡3・土壙20・溝跡3・ピット12・性格不明遺構1) 奈良(土壙4) 中・近世(土壙3・溝跡2)

塚原南遺跡（第2次） 東松山市

立地と環境



都幾川と塚原南遺跡（南から）

塚原南遺跡は、都幾川を南に臨む河岸段丘の中位面先端部に立地する。対岸には岩殿丘陵の山々が並び立っている。都幾川の両岸には河岸段丘が廻々に見られ、その崖線に旧流路が見て取れる。一帯の九頭竜社や悪龍伝説など水害記憶の存在を示す多くの事跡は、都幾川が経てきた流路変遷の著しさを物語るかのようである。

周辺の遺跡は、河岸段丘の上位面に分布が限られている。旧石器時代～縄文時代は塚原遺跡をはじめ、縄文後期の岩の上遺跡、弥生後期の雉子山遺跡など、いずれも上位段丘面上に営まれた集落跡である。遺跡分布の動向は、古墳時代に下唐子古墳群などが中位面へ進出しているが、続く奈良・平安時代の岩の上遺跡などは再び段丘上位面に形成されている。

は、高坂氏や野本氏といった武士団が割拠していたとき、近隣の青鳥城跡にも、この時期から板石塔婆が認められる。

令和5年度調査では、縄文前期の住居跡が検出されたほか、古墳時代の集落跡、中位面の先端部を廻う大きな中世の溝跡が確認された。段丘低位面と河川に近い場所にも、断続的に集落が営まれていたことが明らかになった。

当地周辺の集落は、頻発する水害を避けながら河岸段丘の上位面と中位面に営まってきたことが明らかになりつつある。

発見された遺構

縄文時代

2軒の住居跡は、いざれも縄文時代後期前葉の柄鏡形住居跡である。入口部に川原石が敷き詰められた敷石住居で、出入口部を南北～南北の



第7号住居跡（縄文時代）

の進出は、中世以降のことである。13世紀頃から低地へ

現河川の方向に向けていた。

第3号住居跡は石斧や石皿は出土したが、土器はほとんど見られなかつた。一方、第7号住居跡は縄文時代後期前葉の土器片などが多量に出土した。

古墳時代

第1号住居跡はカマドが東側に付設され、南脇に貯蔵穴があつた。床面は部分的に被熱し、赤色化した痕跡や炭化物が見られた。出土した5世紀代の土師器は完存率が高く、焼失住居の可能性もある。

奈良・平安時代

第17号溝跡は、中世の第1号溝跡の下層から検出された。東西方向に20mほどが残存していた。8世紀後半～9世紀代の南比企産須恵器の壊が多量に出土し、「寺」などと墨書きされた壊も含まれていた。また、第16・17・27号溝跡は低地に向かつて傾斜していることから、排水を目的とした溝跡と思われる。

中・近世

第1号溝跡は、幅5m、深さ1mの14世紀半ば頃の大溝跡である。令和5年度の調査では東西方向約60mが検出され、今回はその東端から北側へ直角に屈曲することが明らかになつた。溝跡の内側の標高が高い台地部分と、外側の低地部分に分けられる。出土した遺物はおよそ14世紀半ばのものが最新で、この頃までに埋まつていったものと思われる。



第1号住居跡カマド（古墳時代）

まとめ

縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が発見された。縄文時代後期前葉の2軒の住居跡は、出入口部に敷石が施された柄鏡形敷石住居跡である。古墳時代の第1号住居跡は、焼失住居の可能性がある。

奈良・平安時代以降は、近世に至るまで台地部を廻繞するように溝が掘られていた。こうした溝跡は、いずれの時期も南側あるいは東側の低地に向けて深くなるように掘削されていることから、排水機能が想定される。

所在地

東松山市大字下唐子字塚原1105
他

実施期間(事業者)

令和6年4月～令和7年3月
(国土交通省関東地方整備局)

調査面積

2,580m²

遺跡の種別

集落跡

主な遺構

縄文（竪穴住居跡2・土壙4・ピット14）

古墳（竪穴住居跡2・土壙2・溝跡1・ピット27）

奈良・平安（竪穴状遺構2・土壙6・溝跡5・ピット12）

中・近世（土壙32・溝跡25・ピット48）

I 令和六年度に調査をした遺跡



第 22 地点第 3 号栅跡（近世）

出水した。ほぼ垂直の掘方で、テラスや階段の
ような施設は確認されなかつた。遺物は肥前系
磁器の碗類や、丹波系陶器の擂鉢、瀬戸美濃系
陶器の志野皿、瓦質土器の平底焙烙、羽釜、大
型の火消壺等が下層から出土した。17世紀後葉
頃に廃絶したと考えられる。

た。時期は奈良時代の8世紀前半頃と考えられる。
近世
第35号溝跡は調査区東壁際に検出され、詳細な規模は不明である。旧中山道に直交する道路の側溝の可能性がある。17世紀後葉～18世紀初

弁文碗、景德鎮窯青白磁の梅瓶、華南三彩の盤など、船載陶磁器の出土は特筆される。

近世

第4号井戸跡は中世常滑焼の甕が出土しているが、第19～21号溝跡より新しいため、時期は17世紀後葉以降である。

中心に機能し、最終廢絶時期は16世紀頃と考えられる。龍泉窯産の青磁蓮弁文碗、景德鎮窯産の青白磁梅瓶、華南三彩などの舶載陶磁のほか、古瀬戸の碗、鉢、梅瓶等がみられ、館跡の存在を想起させる様相を示している。

第57号溝跡を境に、旧中山道側の南側一帯には多数のピットが密集して検出され、概ね3列のピット列が認められた。旧中山道と並行する第3号溝跡は、区画施設と思われる。瀬戸美濃

頭頃の陶磁器が出土した。
土壤やピットは遺物が乏しい。遺構の重複関係や覆土の状況を加味すると、近世以降のものと考えられる。

第16地点から続く第16・19・21号溝跡は、字に屈曲して北東方向へ延び、調査区の中ほどで収束する。第8・15号溝跡は、第21号溝跡に合流する。

に館跡の存在が推定され、箕田館跡推定地とする九右衛門遺跡では堀跡や舶載陶磁器が出土している。第22・23地点では中世の遺構・遺物が認められないことから、遺跡西側に展開して

第3号住居跡は掘り込みが深い。カマドから土師器の甕などが出土した。また、カマドの袖部芯材には土師器の甕が逆位で用いられていて

屋外炉の可能性がある。

〔まとめ〕

または並行に延びる。中山道を基準とした区画が行われ、近世前期の中山道沿いの村落における土地利用を考える重要な成果といえよう。

りに位置するが、攪乱によって遺存状態が不良のため、袖部は確認できなかった。カマド右側の住居コーナー付近から、貯蔵穴状のピットが一基検出された。時期は8世紀前半である。

る土壌1基のみで、遺構の密度は極めて薄い。古墳時代は、第22地点から7世紀後半頃の住居跡が1軒検出された。隣接する第5地点と今わせると8軒となり、この時期の集落の様子を

A vertical photograph showing a muddy, shallow stream flowing through a grassy area. The water is brownish-tan and reflects the surrounding environment. A wooden post stands in the background near the bank.

大型の箱築研堀が、第17地点を起点に第13地点を経由して第24地点第32号溝跡へ繋がる。これは、第15地点を起点にし字に屈曲して第11地点へ続く箱築研堀と一連のものと考えられる。出土遺物が極めて少なく、第11地点では中世陶磁器や錢貨が出土した。

復元する貴重な成果である。奈良・平安時代は、各地点から住居跡が確認され、周辺地點にもこの時期の住居跡が広がっている。時期が8世紀前半と9世紀前半に分かれ、集落は継続的に営まれていない。

住居跡のカマドには、袖部の芯材として土師器の甕が再利用されていた。このような事例は

A large, weathered rock formation with a prominent, curved, light-colored streak running through it. The formation has a rough, textured surface with various holes and crevices. In the background, there is a concrete wall and some greenery.

並走する築研堀の両側縁に集中するピットは、関連する施設の存在が考えられる。延長線上にあたる第1・2・9・13地点でも同様の溝跡が検出され、一連のものと考えられる。遺物は13～14世紀の陶磁器・土器を主体に、15世紀、16世紀の製品も少量みられた。りゅうそうなんせいじ 龍泉窯産青磁碗

県北西部に多い。大宮台地や埼玉県東部では少ないが、平右衛門遺跡では多く確認されており貴重な事例と言える。



第24地点第32号溝跡（中世）

宮前遺跡（第5次） 鴻巣市

みやまえ



空から見た宮前遺跡（第3地点 南から）

川、東側に元荒川が南東方向へ流れている。宮前遺跡は、昭和51年（1976）に「古墳から奈良・平安時代の大規模な集落遺跡」として埼玉県重要遺跡に選定された。

周辺の遺跡は、大宮台地または元荒川の自然堤防上に立地している。旧石器時代は、鴻巣市新屋敷遺跡で石器集中地點や礫群が調査され、ナイフ形石器や尖頭器が出土した市内で最もまとまった資料である。中三谷遺跡でもナイフ形石器や角錐状石器、赤台遺跡では瀬戸内地方に特徴的な国府型のナイフ形石器に類似した石器が出土し、注目されている。

縄文時代では、草創期の遺跡の中三谷遺跡で有舌尖頭器、富士山南遺跡で爪形文系土器が出土した。早期には遺跡数が増加し、中三谷遺跡では押形文系土器、赤台遺跡では条痕文期の住居跡や炉穴群が見つかった。中期は集落も増加し、赤台遺跡、馬室小校庭内遺跡、新屋敷遺跡等で加曾利E式期の集落が確認された。続く後期でも赤台遺跡で名寺式期、中三谷遺跡で堀之内式期の住居跡群が発見さ

れた。

弥生時代の遺跡は少ない。登戸新田遺跡で吉ヶ谷式期の方形周溝墓、九右衛門遺跡で終末期から古墳時代前期の集落跡が見つかった。

古墳時代になると、遺跡数は急激に増加する。宮前本田遺跡、大間原遺跡、馬室小校庭内遺跡、赤台遺跡、新屋敷遺跡等で前期の集落が確認された。中三谷遺跡は古墳時代後期以降まで続く長期的な集落である。後期になつて、箕田古墳群や新屋敷遺跡等の古墳群が形成された。生出塚遺跡や馬室埴輪窯跡といった埴輪窯の開窯もこの頃である。生出塚遺跡では住居跡、埴輪窯跡、工房跡、粘土採掘坑等も確認され、埴輪製作の様相が明らかになった。製作された埴輪は、埼玉古墳群や笠原古墳群に供給されていた。

奈良・平安時代では、遺跡数が減少する。宮前本田遺跡や赤台遺跡、中三谷遺跡等で古墳時代集落が継続している。

中・近世は、箕田館跡、安達館跡、源経基館跡等が城館跡として知られている。箕田館跡推定地の九右衛門遺跡では、大型の堀跡や中世陶磁器類が多量に出土した。中三谷遺跡の「コ」の字状に巡る堀跡、新屋敷遺跡の二重の堀跡は、中世の館跡と推定されている。宮前本田遺跡では、掘立柱建物跡や井戸跡、地下式壙、溝跡が



第3地点第4号住居跡（古墳時代）

■ 所在地 鴻巣市宮前字本田 268 他

■ 実施期間(事業者)
令和6年4月～令和7年3月
(国土交通省関東地方整備局)

■ 調査面積
7,200m²

■ 遺跡の種別
集落跡

■ 主な遺構
第3地点

縄文（住居跡1・土壤5）、古墳（住居跡2）、奈良・平安（住居跡9）、中世（竪穴状遺構2・土壤249・土壤墓2・井戸跡11・溝跡17）、時期不明（掘立柱建物跡2・ピット400・性格不明遺構2）

第4地点
旧石器（礫群1）、奈良・平安（住居跡11・井戸跡3）、中世（溝跡2）、近世（土壤10・井戸跡3・溝跡10）、時期不明（土壤90・ピット100）

I 令和六年度に調査をした遺跡

【 発見された遺構 】

第3地点

縄文時代

第3地点は、台地の縁辺部に沿って形成された縄文時代の集落跡の外縁部分に当たる。後期初頭称名寺式期の住居跡1軒の他、土壙5基が検出された。また、旧石器時代終末から縄文時代草創期の石槍が単独で出土した。



第3地点 第1・2号掘立柱建物跡

古墳時代

古墳時代以降は、安定した台地上に継続的に遺構が展開し、住居跡2軒が発見された。

奈良・平安時代

住居跡9軒が検出された。いずれも掘り込みが浅く、遺物は少なかった。

中世

第2号溝跡は薬研堀で、第4地点から連続し、一辺100m以上の方形の区画を構成している。第4号溝跡は幅、深さともに約2m、東側に区画を形成している。時期はいずれも13～14世紀で、館跡に関連する可能性が考えられる。

時期不明

性格不明遺構2基は、旧中山道に直交する道路の可能性があり、江戸時代に帰属すると考えられる。

第4地点

旧石器時代

これまでに旧石器時代の遺物はわずかに出土していたが、礫群が1か所検出された。

奈良・平安時代

住居跡は中・近世の溝跡や攪乱に壊され、残存状態が悪かった。第2号住居跡は、西側を近世の溝跡に大きく壊されていて。カマドも攪乱により不明瞭であったが、壁際に焼土が認められた北壁中央に設けられていた可能性がある。遺物は、多量の土師器や

須恵器が出土した。第7号住居跡は、カマドが北壁と東壁に付設されていた。当初の北壁カマド廃棄後に、東壁に新設されていた。遺物は、東壁カマド周辺から南比企産の須恵器壊や土師器甕などが少量出土した。

中世

第13号溝跡は、ほぼ直角に屈曲する大溝跡である。第3地点の第2号溝跡から連続するものと考えられる。

近世

第66号土壙は、燈明皿等の陶磁器のか球状磁石や鉄滓が出土した。鍛冶に関連する施設と考えられる。

第2号井戸跡は、壁面に8か所の窪みがほぼ等間隔に残る特異な構造である。窪みの用途は不明である。

第7・8・12号溝跡は、中山道に直交する3条の溝跡である。第7・8号溝跡は、中山道に並行しながら調査区外に延びていた。

【まとめ】

令和元年度から継続していいる上尾道路関係の発掘調査において、初めて旧石器時代の礫群が検出された。

連が注目される。

中世の14世紀代に造られた区画溝は、第3地点から第4地点にかけて一辺100mを超える方形区画を形成している。また、第3地点の東側にも一辺100m前後の方形区画がある。

江戸時代の中山道と並行あるいは直交する方向の道状遺構が検出されたが、旧中山道との関連は明確ではない。



第4地点 磯群（旧石器時代）

かなくほうちで 金久保内出遺跡

(第4次) 上里町



空から見た金久保内出遺跡（北から）

【立地と環境】

金久保内出遺跡は、JR高崎線神保原駅から北西へ3kmの神流川扇状地末端の台地上に立地する。神流川が烏川、利根川と合流する結節点付近に位置し、北側と西側は神流川が流れる低地に向かって傾斜する。周囲には、北側の忍保川、東側の御陣場川など利根川水系の小河川が流れている。

周辺には、古墳時代から近世にかけての遺跡が分布する。縄文・弥生時代は、隣接する清水南遺跡から縄文前期の土壙が発見されたが、ほかは土器片や石器が散布する程度である。

古墳時代は、金久保内出遺跡から多数の住居跡が見つかっている。隣接する清水南遺跡や北稻塚遺跡にも集落跡が所在し、周辺にも集落が分布する。また人物埴輪や円筒埴輪の破片も出土し、古墳が所在した可能性もある。

奈良・平安時代の遺跡は、清水南遺跡や北稻塚遺跡のほか、寺西遺跡などが確認されている。

金久保内出遺跡でも平安時代前期までの住居跡が確認され、古墳時代から平安時代まで継続的に集落が営まれていた。平安時代以降、神流川扇状地末端の集落数は減少し、中堀遺跡や日月遺跡、耕安地遺跡などの本庄台地寄りへ移っていく。

中世の遺跡には、鎌倉時代から南北朝時代頃の掘立柱建物跡が確認された清水南遺跡、戦国時代末期まで存続したとされる金窪南城（館）跡と金窪城（館）跡がある。金久保内出遺跡周辺の神流川流域東岸は天正10年（1582）の神流川合戦の古戦場であり、この合戦で金窪城（館）が落城したとの記録が残る。

江戸時代は、金久保内出遺跡から江戸時代初期とされる土壙墓13基が確認され、遺跡内に墓域が形成されていた。

金久保内出遺跡は、昭和56年に上里町教育委員会が第1次調査を行い、古墳時代後半から奈良時代の住居跡3軒を検出した。

第2次調査では、縄文時代の遺物集中、奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物跡、土壙墓、溝跡、中・近世の掘立柱建物跡、土壙墓、土壙、溝跡等を検出した。続く第3次調査では、縄文時代の遺物集中、古墳時代の住居跡、土壙、遺物集中、奈良時代の住居跡、中・近世の土壙墓、土壙、井戸跡、溝跡、柵跡等を調査した。

【発見された遺構】

第3地点

縄文時代の土壙1基、古墳時代の住居跡24軒、土壙9基、ピット128基、平安時代の住居跡1軒を検出した。住居跡は、調査区の南北から北東に分布していた。

平安時代の住居跡、掘立柱建物跡、土壙、溝跡等を検出した。深鉢や注口土器、赤彩土器の破片約90点がまとまって出土した。土壙の底面には焼土粒子が集中したため、住居跡の炉跡の可能性もある。

調査区北端に、縄文時代後期の第537号土壙を検出した。深鉢や注口土器、赤彩土器の破片約90点がまとまって出土した。土壙の底面には焼土粒子が集中したため、住居跡の炉跡の可能性もある。

上里町内では、これまで神流川扇状地の扇中央部から縄文時代後期の遺物が出土していたが、遺構は見つかっていないかった。今回の調査で初めて、神流川扇状地の末端から遺構が発見された。

縄文時代



第141号住居跡カマド（古墳時代）

古墳・奈良時代

古墳時代後期から奈良時代初頭の住居跡24軒

は密集し、重複が多い。カマドの残存状態は良好で、4軒で煙道天井部が残存していた。

第141号住居跡は、一辺3mの小型の住居跡である。カマドの両袖と天井を横架する土師器甕6点が芯材として転用されていた。カマド付近から出土した高壺の脚部は、カマドに使われていた支脚と思われる。

第129号住居跡は、長軸8m×短軸7.5m、金久保内出遺跡では最大の規模である。カマドも長軸1.8mと大きい。柱穴や貯蔵穴、壁溝等の施設も確認された。

■所在地

埼玉郡上里町金久保913他

■実施期間(事業者)

令和6年4月～令和7年3月
(国土交通省関東地方整備局)

■調査面積

2,973m²

■遺跡の種別

集落跡

■主な遺構

第4地点

古墳（住居跡14・土壙8・ピット151）、中世（掘立柱建物跡1・土壙2・井戸跡3）

I 令和六年度に調査をした遺跡

古墳・奈良時代

住居跡は、第3地点に隣接した調査区西側に
古墳時代後期から奈良時代初頭の住居跡14軒、土壙8基、ピット151基、中世の掘立柱建物跡1棟、土壙2基、井戸跡3基を検出した。これらは調査区の北半分に集中的に分布していた。

第4地点

平安時代
南東の第1地点から、住居跡が1軒のみ検出された。

平安時代

古墳時代後期から奈良時代初頭の住居跡14軒、土壙8基、ピット151基、中世の掘立柱建物跡1棟、土壙2基、井戸跡3基を検出した。これらは調査区の北半分に集中的に分布していた。



第127号住居跡（古墳時代）

密集する。第133号住居跡は、カマド煙道部の天井が崩落せずに残存していた。また、完形に近い土師器の壊や塙が80点以上も出土するという特殊な出土状況が注目される。

中世

第4号掘立柱建物跡は3間×2間の側柱建物跡で、規模は長軸6.6m、短軸3.6mである。柱穴10基中3基から、柱を支える礎板石が検出された。約350m東に位置する清水南遺跡でも、礎板石を伴う掘立柱建物跡が検出された。建物の規模は長軸11.8m、短軸6mと約2倍の大きさであるが、柱穴や礎板石は同規模である。時期は鎌倉時代から南北朝時代頃とされる。

第4号掘立柱建物跡と柱穴や礎板石の規模、長軸と短軸との比率が酷似することから、関連が想定される。

第1号井戸跡は直径約4.5mを超える石組みの井戸である。出土遺物はわずかであったが、

みの井戸である。出土遺物はわずかであったが、調査で調査された土器集中が存在し、多量の土師器のほか、須恵器の台付長頸壺や白玉が出土した。第3地点は、2つの住居群と中間の土器集中というエリアが、意識的に分割されて展開していた。



第4号掘立柱建物跡（中世）



第513号土壙軒丸瓦（中世）



第1号井戸跡（中世）



第418号土壙（中世）

【まとめ】

令和6年度調査では、縄文時代、古墳～奈良時代、中世の遺構・遺物を検出した。

縄文時代は、後期の土壙1基を検出した。これまで確認されていなかつた神流川扇状地末端にも、縄文時代の人々の痕跡が確認された。

古墳～奈良時代は、第3地点から第4地点に住居跡が分布し、さらに第4地点の北側に広がつていくことが想定される。また、第3地点では2つの住居群と遺物集中が意識的に避けられた集落展開が捉えられた。

中世の掘立柱建物跡は、隣接する清水南遺跡の掘立柱建物跡との関連が想定される。井戸跡からは瓦片や板磚、五輪塔、宝篋印塔など上里町内では例が少ない遺物が出土した。周辺に中世寺院が存在した可能性もある。時期的には金久保内出遺跡の北東に位置する金窪城（館）が機能していた頃でもあり、城（館）と寺院の関連が注目される。

清水南遺跡（第3次）上里町



空から見た清水南遺跡（南から）

【立地と環境】

清水南遺跡はJR高崎線神保原駅から北西に約1・4kmに所在し、神流川によって形成された扇状地末端に立地する。

清水南遺跡の周辺では、南西から神流川が北流し、西から流れれる烏川と合流する。烏川はさらに北東にて利根川と合流する。このように遺

跡周辺は河川の結節点にあたり、清水南遺跡と北に流れる烏川との間には忍保川が東流する。

縄文時代は遺構が確認されていないが、清水南遺跡や隣接する金久保内出遺跡から前期の諸磯式土器や打製石斧などの出土が知られており、付近に縄文時代前期頃の集落跡の所在が考

えられてきた。

古墳時代になると集落の営みが活発となる。

金久保内出遺跡では5世紀後半から9世紀後半、東側に位置する丹生遺跡でも奈良・平安時代の集落跡が確認された。

の時期の集落跡は、神流川によって形成された扇状地の縁辺部に分布する。

清水南遺跡の北西部に隣接する金窪城（館）跡は、平安時代後期の治承年間（1177～1181）に武藏七党の丹党に属する加治家季によつて造られたといふ伝承がある。元弘年間（1331～1334）に新田義貞によつて修復され、畠能に城を守らせたといふ伝承も残る。天正10年（1582）の神流川合戦では、滝川一益によつて攻め落とされたことでも知られている。

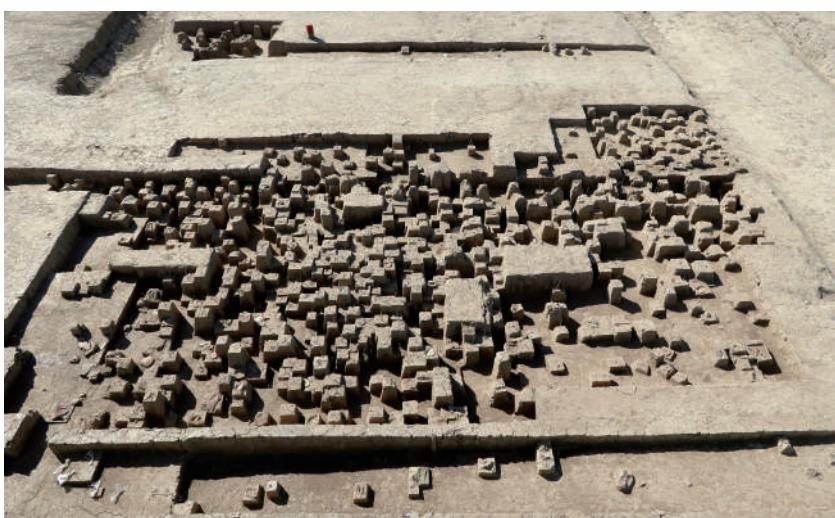
【発見された遺構】

縄文時代

調査区中央部の北側に、遺物包含層が形成されていた。北壁際の縄文時代前期の遺物包含層下面から焼土の集中が確認され、炉跡と考えられる。炉跡の西側に

は比較的残存率の高い遺物が複数確認されていることから、平面形状や規模は不明ながら住居跡の可能性もある。

炉跡の南側には、石器類が集中していた。石器の製作時に飛び散った黒曜石やチャートの細かな剥片が、約8mの範囲で確認され、チャート製の石錐の未成品も発見された。この周辺から、黒曜石製の石錐や石鏃、チャート製の石匙



石器集中（縄文時代）

所在地

埼玉郡上里町金久保1136他

実施期間(事業者)

令和6年4月～令和7年3月
(国土交通省関東地方整備局)

調査面積

2,383m²

遺跡の種別

集落跡

主な遺構

縄文（炉跡1・土壤1・石器集中1・遺物包含層1）
中世（竪穴状遺構3・掘立柱建物跡3・土壤53・土壤墓2・井戸跡1・溝跡22・ピット420）

中世

鎌倉時代から室町時代頃の中世の遺構は、調査区の中央を南北に縦断する第12号溝跡よりも西側に集中する。一方、東側は散在的な分布であった。第12号溝跡の詳細な時期は不明であるが、常滑焼の壺の破片等が出土したことから中世には機能していたものと推察される。

中世

鎌倉時代から室町時代頃の中世の遺構は、調査区の中央を南北に縦断する第12号溝跡よりも西側に集中する。一方、東側は散在的な分布であった。第12号溝跡の詳細な時期は不明であるが、常滑焼の壺の破片等が出土したことから中世には機能していたものと推察される。

I 令和六年度に調査をした遺跡



第 7 号掘立柱建物跡（中世）



第 11 号竪穴状遺構（中世）

調査区西壁際中央から、第10号竪穴状遺構たてあなじょういこうが確認された。西側の第2次調査区では、12m×6mの東西棟の建物跡と西側に竪穴状遺構があり、第10号竪穴状遺構は建物跡の東側に存在する位置関係になる。第10号竪穴状遺構は周囲に柱穴を伴うため、上屋を持った遺構と推察される。大型礫が多く出土し、使用目的は不明であるが、石材として礫を保管していた施設の可能性も考えられる。

井戸跡は、調査区の南側に位置する。上端径7・5m、掘方幅5mと規模が大きい。下層から、径1m程の石組が検出された。石組には川原石や角閃石安山岩かくせんしあさんがんが使用され、隙間には粘土が充

填されていた。角閃石安山岩には加工痕が確認された。古墳の横穴式石室の石材が転用された可能性があり、付近に古墳の存在も示唆している。石組部から鎌倉時代から南北朝時代頃の片口鉢の破片などが出土し、第2次調査で確認された大型の掘立柱建物跡と時期が近似する。中世の石組井戸は格式が高いもので、一連の中世建物群との関連が考えられる。

井戸跡の上層からは、鎌倉・南北朝・室町時代の土器や陶器類がまとまって出土した。瓦の出土も多く、軒平瓦のきひらがわの文様の特徴から前橋や高崎などの上野国方面との関連が窺える。また鬼瓦おにがわの可能性がある破片も出土した。付近に

世の石組井戸は格式が高いもので、一連の中世建物群との関連が考えられる。

井戸跡の最上層には土壙墓どこうぼが掘り込まれ、17世紀頃のカワラケが副葬されていた。

【まとめ】

清水南遺跡第3次調査では、縄文時代前期と中世の遺構が確認された。上里町内では数少ない縄文時代の遺構と、中世遺構群の一端を明らかにすることができた。

この地域には記録や伝承が残されていない。しかし、発掘調査によつて大規模な建物群の存在が明らかになつたことは、地域の歴史を知る上で貴重な資料である。

縄文時代は、炉跡や土壤、石器集中、遺物包含層が確認された。石器集中から出土した剥片はいずれも細かく、石鏃や石錐などの石器が製作されたと考えられる。

中世は、第2次調査で検出されたいた建物群と関連する竪穴状遺構が検出された。周囲のピットの分布から、上屋の存在も想起される。大型建物跡を中心に東西に竪穴状遺構が配置された様相が捉えられ、中世遺構群の構造を把握する上で重要な成果となつた。

井戸跡は格式の高い石組井戸で、建物群に関連する可能性が高い。特に下層の石組内から出土した遺物は、これらの建物群の年代を決める重要な



第 1 号井戸跡軒平瓦（中世）

丹生遺跡（第1次）上里町

たんじょう



空から見た丹生遺跡（南から）

奈良時代中期から後期の寺院跡の五明廃寺から出土した瓦は、上野国新田郡寺井廃寺（現太田市）や佐位郡上植木廃寺（現伊勢崎市）と文様が類似し、上野国との関連が指摘されている。また、古樹原遺跡、

丹生遺跡は、JR高崎線神保原駅から北へ約2kmに位置し、神流川扇状地末端の台地上縁辺に立地する。北側は鳥川低地に向かい傾斜し、台地の縁辺には忍保川が流れる。丹生遺跡の北側は、神流川や忍保川が鳥川利根川と合流する結節点にある。このほかに、東側を流れる御陣場川など、利根川水系を形成する小規模な河川が周辺に存在する。

群集墳の旭・小島古墳群や大御堂古墳群、関越自動車道周辺には青柳古墳群、帶刀古墳群が所在する。また、丹生遺跡の北西には毘沙比古墳群が位置し、近隣の金久保内出遺跡や金窪城（館）跡から円筒埴輪片がわずかに出土して

いる。集落跡は、神流川扇状地の原遺跡、前原遺跡や田通遺跡、北稻塚遺跡がある。奈良時代になると、上里町の一部が武藏国賀美郡に入る。奈良・平安時代の遺跡には田通遺跡、北稻塚遺跡のほか、寺西遺跡や油免遺跡が奈良時代から平安時代前期とされている。以降平安時代中期から後期にかけては、田中西遺跡、日月遺跡、水引塚遺跡、中長遺跡、中堀遺跡がある。集落跡は、上里町北部の忍保川や御陣場川周辺から、閑越道や新幹線の走る南部へ遷る。同時に、住居跡数には減少傾向が見られ、平安時代の中期から後期には大規模な集落は當まれなくなつた。

第1地点 繩文時代

第1地点

【発見された遺構】

前期の土器集中2か所が確認された。いずれも土器の小片で、住居跡などの遺構は確認できなかつた。

古墳時代

第6号住居跡は残存状態が極めて良好で、力マドの芯材に土師器甕が転用されていた。貯蔵穴から、完形の壺や甕が出土した。

第一回2・3×2・4mの小型の住居跡で、カマ

丹生遺跡の周辺では、神流川流域に縄文時代前期から中期の遺物のまとまつた出土が知られている。上里町内では繩文土器の集中が確認されているが、遺構は見つかっていない。

古墳時代は、上里町から本庄市にかけて後期

鎌倉時代の遺跡では、北側にある金窪城（館）跡をはじめ

神流川に沿うように安保氏館跡、長浜氏館跡、勅使河原氏館跡など鎌倉武士団の丹党に関係する遺跡が点在し、丹党との関連が推定される地名や寺社がある。

この地域は、室町時代から関東管領山内上杉氏が支配していた。しかし、戦国時代に関東の霸権争いに敗れた上杉氏は越後に逃れ、後北条氏の支配領域となる。

天正10年（1582）には、後北条氏と織田家臣の滝川氏が神流川を挟んで衝突した神流川合戦の舞台となつた。

所在地
児玉郡上里町金久保982-13他

実施期間(事業者)
令和6年4月～令和7年3月
(国土交通省関東地方整備局)

調査面積
6,632m²

遺跡の種別
集落跡

主な遺構
第1地点
縄文（土器集中2）、古墳（住居跡5）、平安（住居跡1）、中・近世（土壙55）、時期不明（ピット338）

第2地点
縄文（住居跡1）、古墳（住居跡5）、奈良・平安（住居跡32・土壙3）、中・近世（土壙100）、時期不明（ピット654）

第3地点
奈良（住居跡1）、中・近世（土壙1）、時期不明（土壙2）

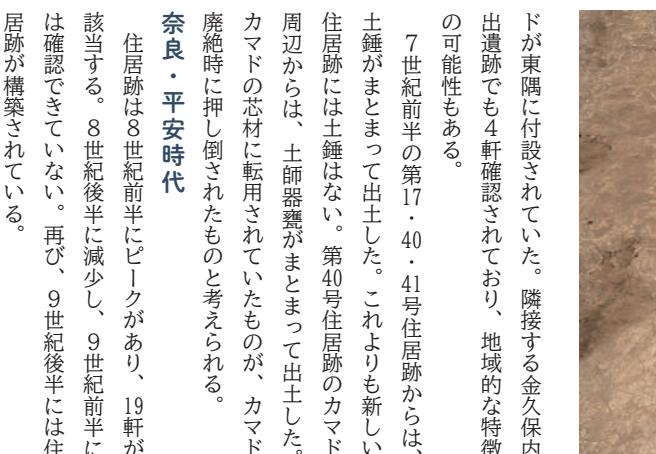


第11号住居跡（古墳時代）

I 令和六年度に調査をした遺跡



第40号住居跡（古墳時代）



第2号住居跡（平安時代）

中期の住居跡の中央には炉跡と推定される焼土が集中し、土器と石核や剥片が出土した。

6世紀後半と思われる第42号住居跡は、カマドが東隅に付設されていた。隣接する金久保内出遺跡でも4軒確認されており、地域的な特徴の可能性もある。

7世紀前半の第17・40・41号住居跡からは、土錐がまとまって出土した。これよりも新しい住居跡には土錐はない。第40号住居跡のカマド周辺からは、土師器甕がまとまって出土した。カマドの芯材に転用されていたものが、カマド廃絶時に押し倒されたものと考えられる。

奈良・平安時代

住居跡は8世紀前半にピーカがあり、19軒が該当する。8世紀後半に減少し、9世紀前半には確認できていない。再び、9世紀後半には住居跡が構築されている。

中・近世

土壙55基と天明3年（1783）の浅間山噴火によって噴出した軽石粒（浅間B）を含んだ流路跡が確認された。第2・3・6・8・10・12号土壙は、この流路を掘り込んだ江戸時代後期以降の土壙である。覆土に多量の炭化物を含む径1・5m、断面フ拉斯コ状の土壙は、弧を描くように並んでいたが、性格は不明である。第7・9・49号土壙は火葬施設で、主軸は東西方に向に揃えられていた。

第2地点

縄文時代

中期の住居跡の中央には炉跡と推定される焼土が集中し、土器と石核や剥片が出土した。

古墳時代

6世紀後半と思われる第42号住居跡は、カマ

8世紀前半の第10号住居跡

マド袖部の土山が掘り残されていた。第9号住居跡は小型の住居跡で、カマドの周辺から灯明皿に転用された土師器壊3点、床面上から須恵器長頸壺が出土した。

第58号土壙は底一面に焼土と炭化物が確認され、9世紀後半の土師器高台付壊が出

出土した。第62号土壙の底面からは、9世紀後半の尾張国猿投窯跡群で生産された灰釉陶器段皿が出土した。灯明皿や灰釉陶器は、本庄道路関係の遺跡から初めて出土した。

中・近世

土壙100基が確認され、カワラケ片と思われる土師質の土器片や、覆土には浅間Bが含まれているが、詳細は不明である。

第3地点

第3地点は表土掘削と遺構の確認作業のみを行い、奈良時代の住居跡1軒、土壙3基を確認した。調査は令和7年度に着手する。

【まとめ】

住居跡は縄文時代1軒、古墳時代（7世紀）

から平安時代前期（9世紀）までの43軒が発見された。

古墳時代の住居跡は、第1地点南側から第2地点の西側にかけて弧を描くように分布する。第3号住居跡を除いて、カマドは東壁に設けられている。奈良時代（8世紀代）に入ると、古墳時代の住居跡を避けるように外側に分布する傾向がうかがわれる。カマドは北壁に設けられるようになる。集落が継続的に営まれ、分布やカマドの位置に一定の規則性がうかがわれる。

平安時代（9世紀後半）の住居跡は古墳時代の可能性も考えられる。



第58号土壙（平安時代）



空から見た虫塚・新右衛門遺跡

【立地と環境】

虫塚・新右衛門遺跡は、東武越生線一本松駅から南東1・5kmに所在する。虫塚は、新右衛門遺跡の包蔵地範囲内に所在する。新右衛門遺跡は縄文時代の集落遺跡で、市民の森を中心とした坂戸・鶴ヶ島台地に立地する。坂戸・鶴ヶ島台地は高麗川扇状地の一角にあたり、部分的に湧水や溜池が形成されている。越辺川に注ぐ飯盛川は遺跡内を東西に横断し、東側の池尻池で滞水する。今回の調査区は、池尻池の南、飯盛川の流れを西に臨む緩斜面地である。

虫塚・新右衛門遺跡の周囲には、多くの遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡は、市

内で15か所以上も確認されている。続く縄文時代も、飯盛川や大谷川の流域に草創期(約1万2000年～約9500年前)から晩期(約3200年～2200年前)までの遺跡が比較的多くみられる。新右衛門遺跡をはじめ雷電池東遺跡・鶴ヶ島中学西遺跡などで集落がみつかっている。

弥生時代の遺跡は少なく、終末期の一天狗遺跡で小集落の存在が窺われる。高倉地区では天神前遺跡で住居跡が発見されている。

古墳時代になると再び集落跡が増加し、上山田遺跡や羽折遺跡Aなどが形成される。鶴ヶ丘稻荷神社古墳は古墳時代終末期(7世紀)の横穴式石室を備える方墳である。

律令制下では武藏国入間郡に所属し、8世紀には一天狗遺跡など大規模な集落が形成された。特に、鶴ヶ島市と坂戸市にまたがる若葉台遺跡は8世紀初頭から9世紀後半にかけての建物が200軒以上も発見され、入間郡衙に推定する説もある。

中世は鎌倉街道上道が鶴ヶ島市町屋を通過し、高倉の高福寺には鎌倉時代製作の不動明王の画像が伝わる。脚折白鬚神社の天正2年(1574)銘札には、脚折、太田ヶ谷、針壳、和田、高倉、大六道、小六道の村名が記され、近世には脚折、太田ヶ谷、三ツ木、高倉村の検地帳が残されている。虫塚・新右衛門遺跡の所在する高倉村の開発もこの頃に進展したらしい。延宝6年(1678)には隣村入会野訴訟絵図が作成され、遺跡周囲も高倉村をはじめと

する数か所の入会地となっていたことが知られる。

元禄10年(1697)頃、市域の村の多くは川越藩領を離れ幕府領あるいは旗本領となつた。隣接して日光脇往還が東部を南北に、川越越生道が東西に通るなど交通の要所でもあつた。

【発見された遺構】

虫塚

着手時点には破損が著しく、盛土も消失し、僅かに下部の一部が残存していた。埋葬施設や周溝、封土の版築技法等、古墳の要素が乏しい。形状は判然としないが、径10m程の塚であったと推定される。

新右衛門遺跡

縄文時代の住居跡は、調査区中央部に集中し、隣接するように分布する。掘り込みは浅いが、炉跡は明瞭に残っていた。第1号住居跡は炉跡は地床炉、壁際には柱穴が配されていた。第3号住居跡の中央の炉跡には深鉢が埋設され、獸骨とみられる骨粉が僅かに確認された。南側には埋甕が遺存し、炉の北側からは比較的深い主柱穴が見つかった。いずれも縄文時代中期後半(加曽利EⅢ式期)の所産と考えられる。

土壙は、縄文土器を含むものが主体である。調査区北東端の飯盛川に向かう傾斜面から検出された第13号土壙は、形態から陥し穴と考えられる。



第1号住居跡(縄文時代)

■所在地

鶴ヶ島市高倉1027-1

■実施期間(事業者)

令和6年10月～令和7年3月
(埼玉県)

■調査面積

2,425.52m²

■遺跡の種別

集落跡

■主な遺構

虫塚

中・近世(塚1)

新右衛門遺跡

縄文(住居跡2・土壙32)、中・近世(溝跡6)、近世(道路跡1)

志久遺跡・赤羽遺跡の周囲には、多くの遺跡が確認されている。南の伊奈氏屋敷跡、東の久くが確認されている。

志久遺跡・赤羽遺跡は、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）志久駅の南東約600mに所在する。大宮台地の東側、小室支台に立地し、周辺は綾瀬川から低い谷地形が入り込んでいる。

志久遺跡・赤羽遺跡の周囲には、多くの遺跡が確認されている。南の伊奈氏屋敷跡、東の久くが確認されている。南の伊奈氏屋敷跡、東の久くが確認されている。

志久遺跡（第2次）・赤羽遺跡（第2次）伊奈町

「立地と環境」

保山遺跡では、旧石器時代の生活痕跡が見つかっている。海進が最も進んだ縄文時代前期には、北西2kmに大針貝塚、北1・5kmに小貝戸貝塚（県指定史跡）が形成された。縄文時代中期には遺跡数が増加し、小室地区では小室天神前遺跡や大山遺跡がある。縄文時代後期・晚期は北方約1kmの本上遺跡に環状盛土遺構が形成され、土偶や土製耳飾が多く出土した。また、伊奈氏屋敷跡の低湿地部からは、土器や木製品

がまとまって出土した。

弥生時代の遺跡は少ないが、古墳時代前期頃に集落数が増加する。小室地区では、

- 所在地
北足立郡伊奈町大字小室字志久
4417-4・4493-5
- 実施期間(事業者)
令和6年5月～令和6年9月
(埼玉県)
- 調査面積
志久遺跡250m²
赤羽遺跡400m²
- 遺跡の種別
集落跡
- 主な遺構
志久遺跡
近世(溝跡3)、時期不明(土壙1)
赤羽遺跡
縄文(住居跡2)、近世(溝跡1)・
時期不明(土壙7)



第3号住居跡炉跡（縄文時代）

虫塚は、中・近世の塚とほぼ確定した。「虫塚」の名称は、駆除した農作物の害虫を供養する「虫供養」に係る可能性がある。九州や北陸には供養塔が残され、関東地方にも類例があるが、塚は伴わない。本事例は、近世高倉村と入会地との境に位置することから、境界塚のような性格についても考慮する必要がある。

新右衛門遺跡では、縄文時代中期後半の住居

跡と異なる。断面は薬研状を呈しているが、頻繁に掘り直した痕跡が無く、位置的にも屋敷境とは考え難い。

「まとめ」

虫塚は、中・近世の塚とほぼ確定した。「虫塚」の名称は、駆除した農作物の害虫を供養する「虫供養」に係る可能性がある。九州や北陸には供養塔が残され、関東地方にも類例があるが、塚は伴わない。本事例は、近世高倉村と入会地との境に位置することから、境界塚のような性格についても考慮する必要がある。

新右衛門遺跡では、縄文時代中期後半の住居

跡2軒を調査した。これまで7次にわたる調査では住居跡の軒数は6軒に留まり、どのように集落が展開していたのかは明確ではない。今回の調査では住居跡が近接して検出された。来年度調査にも複数軒の存在が推定され、当地域における縄文時代集落を考える重要な成果が得られることが期待される。なお、縄文時代中期の土器の他にも、僅かながら縄文時代早期の撲糸文系土器（井草II式）や旧石器時代のナイフ形石器も出土した。より古い段階から土地が利用されていたことも明らかになった。

溝跡や道路跡は、近世の入会地に関連する可能性が考慮される。虫塚も含めて、入会地の実態を考える上で注目され、中・近世の村落との関係から検討すべき課題であろう。



第1・2号溝跡（近世）

奈良時代の伊奈町域は、武藏国足立郡の一部であったとみられる。大山遺跡では奈良時代の中世の遺構は、ニューシャトル内宿駅周辺の

志久遺跡
3条の溝跡が調査区を東西方向に横断している。

〔 発見された遺構 〕

薬師堂根遺跡等で見つかっている。伊奈氏屋敷跡は、徳川家康に仕えた関東代官頭の伊奈忠次が入った陣屋である。陣屋が置かれる前に形成された大規模な堀跡（障子堀）が発見され、もともとは戦国時代の城であったと推定される。天正18年（1590）に伊奈忠次が入り、近世陣屋として整備されたものと考えられる。

志久遺跡は昭和46年度の調査で、縄文時代中期～後期初頭の住居跡12軒が発掘された。また、赤羽遺跡は昭和56年度に縄文時代中期の住居跡3軒、平安時代の住居跡1軒、方形周溝墓、土壙、炭焼窯跡、井戸跡、溝跡が各1基見つかっている。



志久遺跡 第2号溝跡（江戸時代）



赤羽遺跡 第1号住居跡埋甕（縄文時代）

第一号住居跡から、埋設された縄文時代中期（加曾利E III式）の深鉢が検出され、住居跡に付属する埋甕とした。狭小調査区のため、住居跡の規模やほかの施設は不明である。

第二号住居跡は攪乱が激しく、貼床面の範囲から径6mほどの円形と推定され、中に炉が残る。縄文時代中期（加曾利E III式）の土器が出土した。

赤羽遺跡

た。第1号溝跡は浅く、一度掘り直されたようである。第2・3号溝跡は比較的深い断面V字形の溝で、第2号溝跡は埋没過程で掘り直しが行われている。出土遺物から各溝跡とも、江戸時代後期（19世紀前半）には機能していたものと推定される。



赤羽遺跡 第2号住居跡（縄文時代）

第一～7号土壙は、近世の耕作に係る遺構を含むものと思われる。第一号土壙は隅丸長方形の平面形で、覆土中層にローム土が貼られたよう堆積していた。第四～6号土壙は、区画に係る溝跡の可能性もある。

〔 まとめ 〕

志久遺跡
第一・2号溝跡は、近世の地割に沿って設けられた区画溝の役割を持つものと考えられる。

明治期の迅速測図にも記され、現在の地割にも名残が見られる。第三号溝跡は断面形や深さが第2号溝跡と類似するが、方向が異なる。赤羽遺跡の第四～6号土壙も含めて、古地図・古写真や地形等と照合し、土地利用の復元が課題である。

赤羽遺跡
2軒の住居跡は、いずれも縄文時代中期（加曾利E III式）のものである。昭和46年の調査成績を加えると、住居跡の分布は南北110m程度に広がり、さらに集落の南限がより広がる可能性が高くなつた。一方、この間には縄文時代の遺構が検出されなかつた志久遺跡の第2次調査区があり、遺構の分布と地形との関係について検討を行う必要がある。



赤羽遺跡 第4・5号土壙（近世）

北稻塚第Ⅱ遺跡（第3次）上里町

I 令和六年度に調査をした遺跡



空から見た北稻塚遺跡（北から）



第1号住居跡（古墳時代）

上里町には、古墳時代から古代の遺跡が数多く確認されている。本庄台地には、本庄小島古墳群が広がり、直刀、耳環、銅鏡等が出土した浅間山古墳が所在する。神流川扇状地には、下長

古墳時代の遺構は、南北に長い調査区の北半に集中していた。時期はいずれも7世紀後半から7世紀末と考えられる。

第2号住居跡はカマドが南壁に付設され、貯蔵穴の上面から完形の土師器脚付壺と环の破片がまとまって出土した。

第3号住居跡はカマドが北壁に設けられ、両袖部と天井部には芯材として土師器壺が転用されていた。東壁中央には、完形の土師器壺十数点が重なっていた。

第6号住居跡もカマドは北壁に設置され、煙道内から補強材として転用された土師器壺が潰れた状態で出土した。煙出し付近から完形の土師器壺が数枚重なって出土したが、カマド崩落後に置かれた可能性が高い。また、貯蔵穴の北側から、完形の土師器壺や环が正位の状態で出土し、壺の下部は床面に埋設されていた。壺の底部には穿孔が二か所あり、貯蔵容器として使用されていたものではない。意図的に残置され



第6号住居跡（古墳時代）

北稻塚第Ⅱ遺跡は、JR高崎線神保原駅から北東約1kmに所在する。神流川扇状地の扇端附近の微高地に立地し、北側に御陣場川が東流する。上里町の地形は、沖積台地の本庄台地、約1万年前に形成された神流川扇状地、鳥川・利根川沿いに広がる冲積低地の鳥川低地からなっている。

上里町には、古墳時代から古代の遺跡が数多く確認されている。本庄台地には、本庄小島古墳群が広がり、直刀、耳環、銅鏡等が出土した浅

間山古墳が所在する。神流川扇状地には、下長

「立地と環境」

北稻塚第Ⅱ遺跡は、JR高崎線神保原駅から北東約1kmに所在する。神流川扇状地の扇端付

近の微高地に立地し、北側に御陣場川が東流する。利根川や鳥川が氾濫した鳥川低地には、遺跡は確認されていない。

これまでに北稻塚第Ⅱ遺跡では2回の調査が行われている。平成16年度の第1次調査（上里町教育委員会実施）では、古墳時代の住居跡5

軒、竪穴状遺構1基、奈良・平安時代の住居跡1軒が確認された。また、令和4年度の第2次調査では、古墳時代の住居跡9軒、奈良・平安時代の住居跡1軒を確認した。

八木上遺跡（第8次）狭山市

ばちぎうえ



空から見た八木上遺跡

八木上遺跡は狭山市西端部に位置し、入間川中流域左岸の河岸段丘上に立地する。入間川の対岸は入間市にあたり、武藏野台地、加治丘陵東端部を臨む。

狹山市は埼玉県の南西部に位置する。南西から北東へ入間川が流れ、川沿いの氾濫低地の外側には河岸段丘が形成されている。右岸の段丘は武藏野台地、左岸は入間台地と呼ばれる。

段丘面は3段から成る。昭和63年度の第1次調査は中位段丘面、平成2～4年度の第2～5次調査は上位～下位段丘面、平成18年度の第6次調査は上位段丘面の発掘調査を行った。

本年度の第8次調査区（2A・B区）は、第2～5次調査区西側の上位段丘斜面部及び中位段丘面を対象とした。3区は遺跡南側の上位段丘と中位段丘面の中間のテラス部にあたる。

狹山市域の旧石器時代の遺跡は、入間川左岸に立地する西久保遺跡から、石器集中や礫群が検出され、ナイフ形石器を主体に、搔器、削器などが出土した。

縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が西久保遺跡、上広瀬上ノ原遺跡、下双木遺跡、丸山遺跡から出土した。早期は、高根遺跡から押抜型文系土器、西久保遺跡と今宿遺跡から条痕文系土器を伴う炉穴が検出された。

前期から中期にかけて遺跡数が増加し、入間川の両岸に集落遺跡が分布する。入間川左岸では、八木前遺跡から黒浜式期～諸磯c式期の住居跡と土壙群、八木遺跡から黒浜式期の住居跡が検出され、金井上遺跡では諸磯c式期～十三菩提式期の土器群が出土した。また、八木上遺跡から黒浜式期、諸磯b式期、十三菩提式期の土器群も出土した。入間川右岸では、揚櫛木跡から黒浜式期、入間市金堀沢遺跡から諸磯b式期の集落跡が発見された。

中期になると遺跡数が急増する。八木遺跡から加曾利E式期の住居跡、八木上遺跡の東に隣接する埼玉県選定重要遺跡の宮地遺跡から諸磯b

八木上遺跡は狭山市西端部に位置し、入間川の対岸は入間市にあたり、武藏野台地、加治丘陵東端部を臨む。

狹山市は埼玉県の南西部に位置する。南西から北東へ入間川が流れ、川沿いの氾濫低地の外側には河岸段丘が形成されている。右岸の段丘は武藏野台地、左岸は入間台地と呼ばれる。

段丘面は3段から成る。昭和63年度の第1次調査は中位段丘面、平成2～4年度の第2～5次調査は上位～下位段丘面、平成18年度の第6次調査は上位段丘面の発掘調査を行った。

本年度の第8次調査区（2A・B区）は、第2～5次調査区西側の上位段丘斜面部及び中位段丘面を対象とした。3区は遺跡南側の上位段丘と中位段丘面の中間のテラス部にあたる。

狹山市域の旧石器時代の遺跡は、入間川左岸に立地する西久保遺跡から、石器集中や礫群が検出され、ナイフ形石器を主体に、搔器、削器などが出土した。

縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が西久保遺跡、上広瀬上ノ原遺跡、下双木遺跡、丸山遺跡から出土した。早期は、高根遺跡から押抜型文系土器、西久保遺跡と今宿遺跡から条痕文系土器を伴う炉穴が検出された。

前期から中期にかけて遺跡数が増加し、入間川の両岸に集落遺跡が分布する。入間川左岸では、八木前遺跡から黒浜式期～諸磯c式期の住居跡と土壙群、八木遺跡から黒浜式期の住居跡が検出され、金井上遺跡では諸磯c式期～十三菩提式期の土器群が出土した。また、八木上遺跡から黒浜式期、諸磯b式期、十三菩提式期の土器群も出土した。入間川右岸では、揚櫛木跡から黒浜式期、入間市金堀沢遺跡から諸磯b式期の集落跡が発見された。

中期になると遺跡数が急増する。八木遺跡から加曾利E式期の住居跡、八木上遺跡の東に隣接する埼玉県選定重要遺跡の宮地遺跡から諸磯b

【立地と環境】

調査は中位段丘面、平成2～4年度の第2～5次調査は上位～下位段丘面、平成18年度の第6次調査は上位段丘面の発掘調査を行った。

本年度の第8次調査区（2A・B区）は、第2～5次調査区西側の上位段丘斜面部及び中位段丘面を対象とした。3区は遺跡南側の上位段丘と中位段丘面の中間のテラス部にあたる。

狹山市域の旧石器時代の遺跡は、入間川左岸に立地する西久保遺跡から、石器集中や礫群が検出され、ナイフ形石器を主体に、搔器、削器などが出土した。

縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が西久保遺跡、上広瀬上ノ原遺跡、下双木遺跡、丸山遺跡から出土した。早期は、高根遺跡から押抜型文系土器、西久保遺跡と今宿遺跡から条痕文系土器を伴う炉穴が検出された。

前期から中期にかけて遺跡数が増加し、入間川の両岸に集落遺跡が分布する。入間川左岸では、八木前遺跡から黒浜式期～諸磯c式期の住居跡と土壙群、八木遺跡から黒浜式期の住居跡が検出され、金井上遺跡では諸磯c式期～十三菩提式期の土器群が出土した。また、八木上遺跡から黒浜式期、諸磯b式期、十三菩提式期の土器群も出土した。入間川右岸では、揚櫛木跡から黒浜式期、入間市金堀沢遺跡から諸磯b式期の集落跡が発見された。

中期になると遺跡数が急増する。八木遺跡から加曾利E式期の住居跡、八木上遺跡の東に隣接する埼玉県選定重要遺跡の宮地遺跡から諸磯b

式期～加曾利E式期の大規模な集落跡が検出された。

後期以降は遺跡数が減少する。晩期には入間川左岸上流の中位段丘面上に飯能市中橋場遺跡などが形成されるが、狭山市内では確認されていない。続く、弥生時代から古墳時代前・中期の遺跡は発見されていない。

■ 所在地	狭山市大字笛井字八木上2348-1他
■ 実施期間(事業者)	令和6年4月～令和7年3月 (東日本高速道路株式会社)
■ 調査面積	5,398m ²
■ 遺跡の種別	集落跡
■ 主な遺構	旧石器（散布地2） 縄文（住居跡1・竪穴状遺構2・集石土壙2・土壙24） 奈良・平安（掘立柱建物跡2・土壙4・溝跡2） 中・近世（土壙5・畠跡7） 時期不明（土壙67・井戸跡1・溝跡6・地下式坑2・集石土壙8・ピット189）

【発見された遺構】



第2号住居跡（縄文時代）

縄文時代

縄文時代の遺構と遺物は、2区中位段丘面から散発的に発見された。調査区南側から、前期諸磯式期の土壙1基が検出された。集石土壙2基は被熱した破碎礫(焼礫)が散布した状態で検出されたが、覆土に炭化物や焼土粒は確認されなかつた。石材には主に砂岩、チャートが用いられていた。近接する竪穴状遺構から前期黒浜式土器が出土した。3区の住居跡は4~5m四方の方形で、縄文時代後期安行1式の深鉢形土器、石器が出土した。

奈良・平安時代

2条の区画溝跡は、令和5年度調査区から延びている。東西方向に50m並走し、両端は南側に直角に屈折する。須恵器甕、瓦、礫などが出土した。



第2号竪穴状遺構（縄文時代）



第2号集石土壙（縄文時代）

溝が検出され、時期は近世以降と考えられる。

土壙、ピットの多くは出土遺物がない。竪坑と地下室からなる地下式坑から、中世陶磁器から現代に及ぶ遺物が出土し、長期間にわたって利用されたことが推察される。

3区の集石土壙7基は東西15m、両端が北側に屈曲する「コ」の字に配されていた。集石下から柱材や柱穴状の落ち込みが認められ、建物の柱を支えた根石または裏込めの可能性がある。残る1基の集石土壙は、自然礫、破碎礫に混じって縄文土器、石器などが出土しているが、縄文時代の蒸し焼き調理施設とは用途が異なるようである。

〔まとめ〕

旧石器時代～縄文時代草創期のナイフ形石器、ポイント、有茎尖頭器が、ローマ層最上面から単独で出土した。出土層位の状況は、縄文時代草創期の遺物は、斜面部及び中位段丘面に流れ込んだ可能性を示唆する。

縄文時代前期は、集石土壙と竪穴状遺構に対応関係が認められ、調理施設と作業小屋または仮収納庫的な関係が想定される。これまでの調査事例から、居住域と居住域の中間に位置した共同施設の可能性がある。

縄文時代後期安行1式期の住居跡及び畠跡は7か所検出された。令和5年度調査区から連続するもので、上位段丘からの斜面部に広がる。18世紀後半頃の陶磁器の小破片が少量出土した。また、上位段丘面旧市道脇から、長方形の地下室穴が検出された。

時期不明

2区では幅1m、深さ1mの箱築研堀の地割

代の集落が確認できた。並行する2条の区画溝

は、間隔が1mに満たないことから築地または垣根などの可能性があり、東西方向約50mに半町の方形区画が推察される。掘立柱建物跡1棟は区画溝の外側、もう1棟は区画溝と重複する。

先行して構築された掘立柱建物跡を取り壊し、区画溝が掘削されている。周辺の地理、地形的状況から、東金子窯跡群のある加治丘陵東端部から入間川篠井の渡河点を経て、日高市女影寺や南比企窯跡群に続く交通路が推定される。この交通路を臨む有力者の居宅なども視野に入れた検討が必要である。



第5・6号畠跡（近世）

II 令和六年度に刊行された報告書

発掘調査された遺跡の成果は、調査報告書としてまとめられます。バラバラに出土した破片を復元して元の形にするなどの地道な作業を行います。これら一連の作業を「整理」と言います。調査報告書を刊行し、発掘調査は終了となります。今年度は3冊の調査報告書を刊行しました。



485集『塚原南遺跡』



486集『小久住遺跡』

(資料所蔵・写真提供：埼玉県教育委員会)

令和6年度 刊行報告書



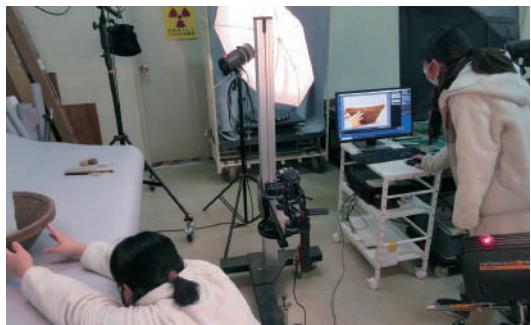
■ 484集 『道原遺跡』 (羽生市)	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告
■ 485集 『塚原南遺跡』 (東松山市)	河川改修工事（塚原南遺跡埋蔵文化財発掘（整理）調査業務委託）埋蔵文化財発掘調査報告
■ 486集 『小久住遺跡』 (飯能市)	交付金（改築）工事（小久住遺跡埋蔵文化財報告書作成業務委託）埋蔵文化財発掘調査報告

III 発掘資料の保存と活用

1

保存・活用事業（埼玉県収蔵埋蔵文化財保存活用業務委託事業）

一 資料の管理



出土品の写真撮影



カラースライドの選択

- | | |
|------------------------|-----------|
| ・出土品の写真撮影 | 2,500 点 |
| ・出土品のデータ作成 | 2,500 点 |
| ・写真整理台帳の作成 | 42,939 コマ |
| ・実測図整理台帳の作成 | 3,058 枚 |
| ・カラースライドの複製作成（フォト DVD） | 800 コマ |



出土金属製品の樹脂含浸取り上げ



出土木製品のPEG 含浸処理

- | | |
|--------------|-------|
| ・出土金属製品の保存処理 | 300 点 |
| ・出土木製品の保存処理 | 370 点 |

二 保存処理



『埋文さいたま』第 68 号
特集：「環状盛土遺構と縄文後・晩期の集落」

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ・学習用キットカタログの作成 | PDF ファイル WEB 公開 |
| ・埋蔵文化財ニュース（『埋文さいたま』 第 68 号） | PDF ファイル WEB 公開 |
| ・遺跡見学会資料の作成（参加者用 500 部×2回） | 1,000 部 |

四 印刷物の刊行・配布



図書室

- | | |
|--|---------|
| ・県内外の埋蔵文化財に関する情報収集
(博物館、教育委員会発行物、現地資料等) | 419 件 |
| ・図書の収集・整理保管
(県教委受入図書の整理、収納) | 217 冊 |
| ・図書データ作成
(内訳：県教委 146、収蔵施設 71、事業団 1,720 冊) | 1,937 冊 |
| ・資料室利用者等への対応（随時） | 122 人 |

三 情報収集

五 出前授業「古代から教室へのメッセージ」



令和6年度「古代から教室へのメッセージ」実施校一覧（42校）

1	4/23（火）	三郷市立彦成小学校	22	7/5（金）	東松山市立松山第一小学校
2	4/30（火）	春日部市立幸松小学校	23	7/8（月）	所沢市立松井小学校
3	5/10（金）	川口市立南鳩ヶ谷小学校	24	7/12（金）	川口市立舟戸小学校
4	6/3（月）	皆野町立三沢小学校	25	7/16（火）	三郷市立高州東小学校
5	6/4（火）	久喜市立栗橋南小学校	26	8/30（金）	吉川市立栄小学校
6	6/6（木）	深谷市立花園小学校	27	9/3（火）	さいたま市立辻南小学校
7	6/7（金）	川口市立芝樋ノ爪小学校	28	9/4（水）	行田市立南河原小学校
8	6/10（月）	本庄市立共和小学校	29	9/5（木）	行田市立北小学校
9	6/11（火）	新座市立新座小学校	30	9/6（金）	羽生市立羽生北小学校
10	6/13（木）	深谷市立川本北小学校	31	9/10（火）	川口市立神根東小学校
11	7/17（水）	羽生市立岩瀬小学校	32	9/12（木）	八潮市立八幡小学校
12	6/17（月）	さいたま市立日進北小学校	33	9/19（木）	草加市立川柳小学校
13	6/18（火）	幸手市立権現堂川小学校	34	10/4（金）	戸田市立笛目小学校
14	6/19（水）	宮代町立須賀小学校	35	10/17（木）	寄居町立用土小学校
15	6/20（木）	加須市立三俣小学校	36	10/24（木）	蓮田市立黒浜西小学校
16	6/25（火）	春日部市立武里小学校	37	10/25（金）	白岡市立菁莪小学校
17	6/27（木）	久喜市立久喜小学校	38	2/4（火）	久喜市立砂原小学校
18	6/28（金）	川口市立飯塚小学校	39	2/6（木）	鴻巣市立鴻巣北小学校
19	7/1（月）	加須市立騎西小学校	40	2/20（木）	羽生市立新郷第一小学校
20	7/2（火）	三郷市立前谷小学校	41	9/17（火）	県立川島ひばりが丘特別支援学校
21	7/4（木）	上尾市立大谷小学校	42	11/19（火）	県立特別支援学校坂戸ろう学園

六 学習用キットの貸出し

『学習用キットカタログ』

各キットの内容を紹介しています
※ホームページで公開しています



運びやすく梱包した学習用キットを無料で貸出しています。地域別・テーマ別など、約120セットの中から選べます。社会科や図工の教材として、あるいは地域の郷土学習の資料として、ご利用ください。参考パネルや体験用の火おこしセットなども用意しています。

遺跡から出土した土器や石器、埴輪などを小中学校の学習用教材として活用しています。ふだん発掘調査等に従事している専門職員が、埼玉県内から出土した本物の土器や石器、埴輪などを持参して授業をお手伝いします。

一 遺跡見学会

発掘調査で得られたさまざまな成果や出土遺物をいち早く県民の皆さんにお伝えしています。発掘中の遺跡の様子や、出土した遺物などを調査担当者がわかりやすく説明し、疑問や質問にもお答えします。

土の中に埋もれていた身近な歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



令和6年度第1回 埼玉県業務委託事業
令和6年9月7日（土）
塚原南遺跡（東松山市）
見学者：142人



令和6年度第2回
令和6年10月5日（土）
宮前遺跡（鴻巣市）
見学者：115人



令和6年度第4回
令和6年12月22日（日）
船川遺跡（行田市）
見学者：127人

二 集客施設等での展示



■ 令和6年度 ほるたま展「古墳時代の祈り」

ワークショップの様子

1 そごう大宮店（さいたま市）	ワークショップ「見て・さわって」きみも考古学者!!	令和6年8月3日（土）・4日（日）	見学者：2,631人 参加者：16組33人
2 モラージュ菖蒲（久喜市）		令和6年9月14日（土）・15日（日）	見学者：1,724人
3 ららぽーと富士見（富士見市）		令和6年10月19日（土）・20日（日）	見学者：2,341人
4 ニットーモール（熊谷市）		令和6年11月23日（土・祝）・24日（日）	見学者：777人
5 埼玉県立さきたま史跡の博物館（行田市）		令和6年12月14日（土）～令和7年2月2日（日）	見学者：4,361人



■ 令和6年度 里帰り展「ただいま！長竹遺跡の縄文展」（ほるたま考古学セミナー同時開催）

パストラルかぞ 展示室（加須市）

令和7年1月25日（土）・26日（日）

見学者：379人



■ 県民の日 まいぶんフェスタ 2024（ほるたま展第4部同時開催）

ニットーモール（熊谷市） 令和6年11月23日（土・祝）・24日（日） 参加者：子持勾玉36人、土器にさわろう255人

三 まいぶんフェスタの開催



■ 令和6年度ほるたま考古学セミナー「長竹遺跡—地中に埋もれた巨大遺跡—」

パストラルかぞ 小ホール（加須市）

令和7年1月26日（日）

185人受講

四 公開考古学講座

Ⅲ 発掘資料の保存と活用

五 印刷物等			
展示解説パンフレット	ほるたま展 2024	発行：令和 6 年 8 月	4,000 部
展示解説パンフレット	里帰り展（パストラルかぞ）	発行：令和 7 年 1 月	500 部
発掘情報チラシ	遺跡見学会 第 2 回・第 4 回	発行：令和 6 年 10 月・12 月	500 部
年報	「さいたま埋文リポート 2024」(年報 44)	発行：令和 6 年 10 月 31 日	500 部
研究紀要	「研究紀要」第 39 号	発行：令和 7 年 3 月 18 日	500 部

六 研修等の受入れ			
LeArchaeology（任意団体）	平右衛門遺跡見学	令和 6 年 8 月 8 日（木）	11 人受入
学習院大学輔仁会	丹生遺跡見学	令和 6 年 8 月 19 日（月）	5 人受入
立正大学	本部施設見学	令和 6 年 8 月 26 日（月）	17 人受入

七 講師等の派遣			
東京成徳大学深谷中学校	出前授業（1 年生）	令和 6 年 8 月 28 日（水）	17 人受講
大東文化大学リカレント教育（観光歴史ガイド養成プログラム）	科目：史跡ガイド実習〔講義・現地実習各 1 日（各 4 時間）〕	講義：9 月 28 日（土） 現地実習：10 月 6 日（日）	5 人受講
近つ飛鳥博物館講演	演題：「栗橋宿関連遺跡群～よみがえる近世の宿場町～」	令和 6 年 11 月 10 日（日）	26 人受講
越谷児童相談所	出前授業	令和 6 年 11 月 13 日（水）	35 人受講
戸田市博物館講座	演題：「古墳時代の水上交通と戸田」	令和 6 年 11 月 16 日（土）	29 人受講
本庄市教育委員会	X 線撮影（1 点）協力	令和 6 年 11 月 26 日（火）	
戸田市教育委員会	X 線撮影（22 点）協力	令和 6 年 12 月 3 日（火）	
岩槻郷土資料館	演題：「小林八束 1 遺跡の祭祀遺構について」	令和 7 年 1 月 11 日（土）	33 人受講
さきたま講座⑥	演題：「小敷田遺跡について」	令和 7 年 3 月 8 日（土）	60 人受講
あげお子ども大学	演題：「縄文時代の暮らし」	令和 7 年 3 月 8 日（土）	17 人受講
久喜市歴史講座	演題：「栗橋宿おしゃれコレクション」	令和 7 年 3 月 9 日（日）	21 人受講
久喜市歴史講座	演題：「八坂神社を支えた匠－社殿の基礎構造－」	令和 7 年 3 月 16 日（日）	29 人受講

八 その他			
友山まつり 遺物展示解説		令和 6 年 4 月 27 日（土）	253 人来場
全埋協関東ブロック 関東考古学フェア スタンプラリー		令和 6 年 6 月 8 日（土）～11 月 24 日（日）	352 人応募
全埋協関東ブロック 関東考古学フェア 「発掘された関東の遺跡 2024」	遺跡発表会 会場：千葉県立中央博物館	令和 6 年 6 月 22 日（土）	141 人来場
東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団 普及連携事業公開セミナー	テーマ：「墓・ムラ・縄文人－縄文後期前葉の集落様相－」 会場：県民共済みらいホール	令和 7 年 2 月 1 日（土）	225 人来場

事業団オリジナルグッズの企画・製作			
YouTube 動画配信（県民への事業団 PR）	第 1 回配信 第 3 回遺跡見学会（12 月）	292 回再生	
	第 2 回配信 第 4 回遺跡見学会（1 月）	148 回再生	
SNS による遺跡見学会等の各種情報提供	X (旧 Twitter) フォロワー総数：2,009 人	令和 6 年度ポスト数：88 回	
	LINE 登録総数：299 人	令和 6 年度発信数：14 回	

九 研究及び研究支援等			
大規模改修工事のため休止			

IV 事業団の概要

1 設立の趣旨と目的

古くから多くの人々が生活を営んできた埼玉県の地には、先人の生活の足跡をものがたる埋蔵文化財が数多く残されています。これらの文化財は、郷土埼玉の歴史を解明する上で必要不可欠な資料であるとともに、貴重な文化遺産でもあります。これを保護し後世に伝えることは、今日の我々の責務であると言えます。

一方において、県内経済の安定成長を確保し、県民生活の向上を図るため、各種開発が盛んに実施されており、その事業が埋蔵文化財の包蔵地に及ぶことも少なくありません。そうした場合には、緊急に発掘調査等の保護措置を講ずることが必要です。

埋蔵文化財の保護と県土の開発の調和を図るために、文化財保護法の定める精神を基本理念として、公共開発に適切に対処していくことが重要です。

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団は、こうした趣旨の下で、県内の埋蔵文化財の調査・研究、記録保存を行うとともに、埋蔵文化財の保護思想の啓発と普及を図ることを目的として、昭和五十五年に埼玉県の出資により設立されました。

2 略沿革

昭和五十五年四月 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団設立。事務所を県パンビル（浦和市岸町7-6-13）内に置く。
2部4課制、役員11名（理事9、監事2）、事務局員32名。
昭和五十七年四月 事業団本部事務所を大宮市櫛引町2丁目499番地に移転。2部5課制、役員12名（理事10、監事2）、事務局職員52名。
昭和六十二年四月 大里整理事務所開設（大里郡大里村箕輪）。
平成元年十月 事業団本部事務所が大里郡大里村大字箕輪字船木813に移転。
平成二年四月 埼玉県立埋蔵文化財センター設立に伴い、事業団本部事務所の所在地を同センター内に置く（大里郡大里村大字箕輪字船木84番地）。

平成三年八月 大宮整理事務所を大宮市東大成町2丁目557番地5に設置。

平成十年六月

大里村の区画整備事業に伴い、事業団本部の住所表示を大里郡大里村船木台4丁目4番地1に変更。

大宮整理事務所廃止。

平成十二年三月

平成十四年四月

平成十七年十月

平成十八年四月

平成二十四年四月

平成二十六年三月

市町村合併により、事業団本部の住所表示が熊谷市船木台4丁目4番地1に変更。
埼玉県立埋蔵文化財センター廃止により、施設名称が埼玉県文化財収蔵施設となる。事業団本部事務所の所在地を同施設内に置く。

公益財団法人に移行する。

3 組織の概要

(1) 事業

① 埋蔵文化財の発掘調査・記録作成

② 埼玉県教育委員会から委託された保存活用業務による資料保存・普及事業

③ 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究

④ 埋蔵文化財保護思想の啓発と普及

(2) 設立年月日

昭和五十五年四月一日

(3) 出資者

埼玉県

(4) 基本財産

1,000万円

(5) 事務所所在地

埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

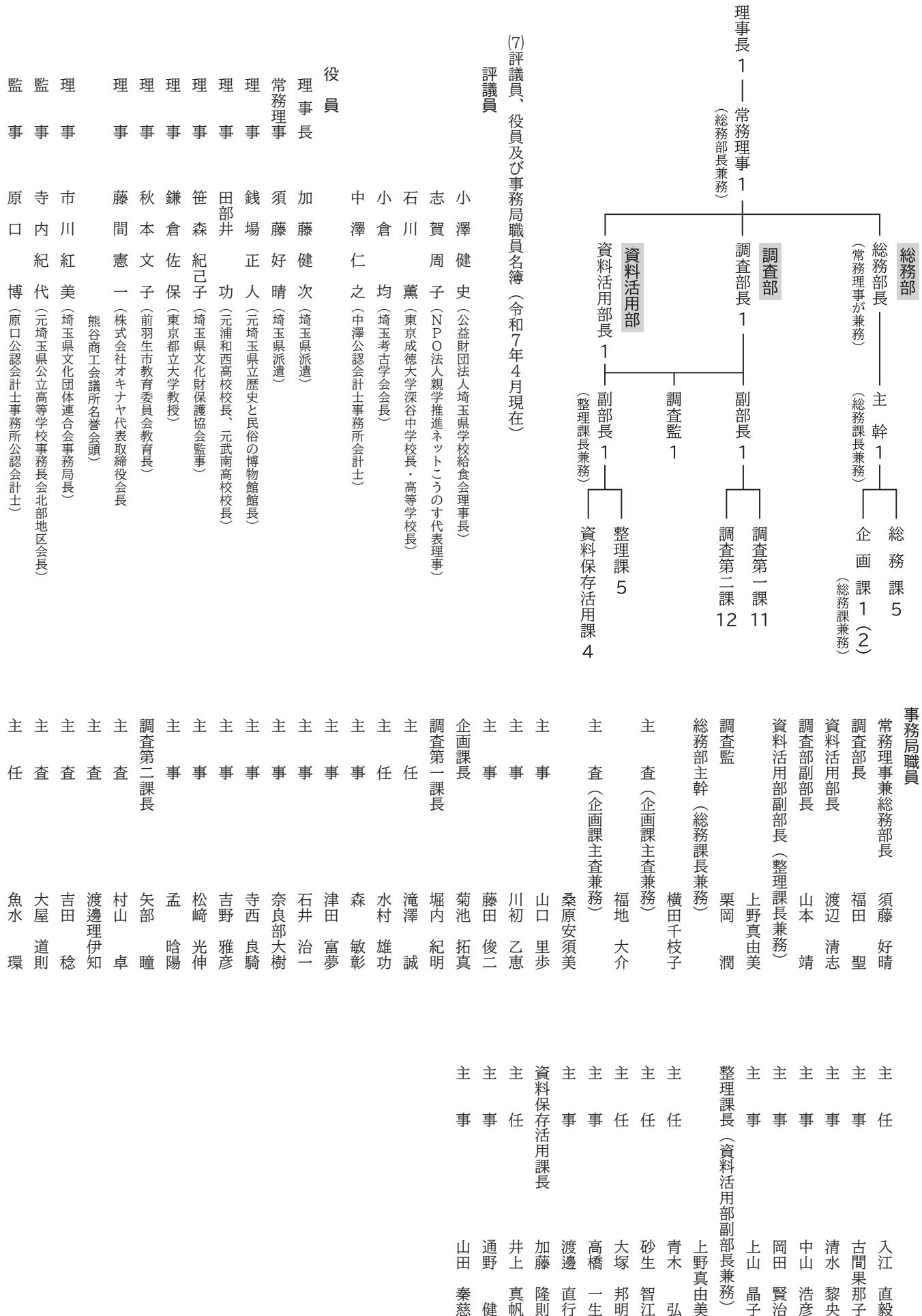
(6) 組織図及び人員

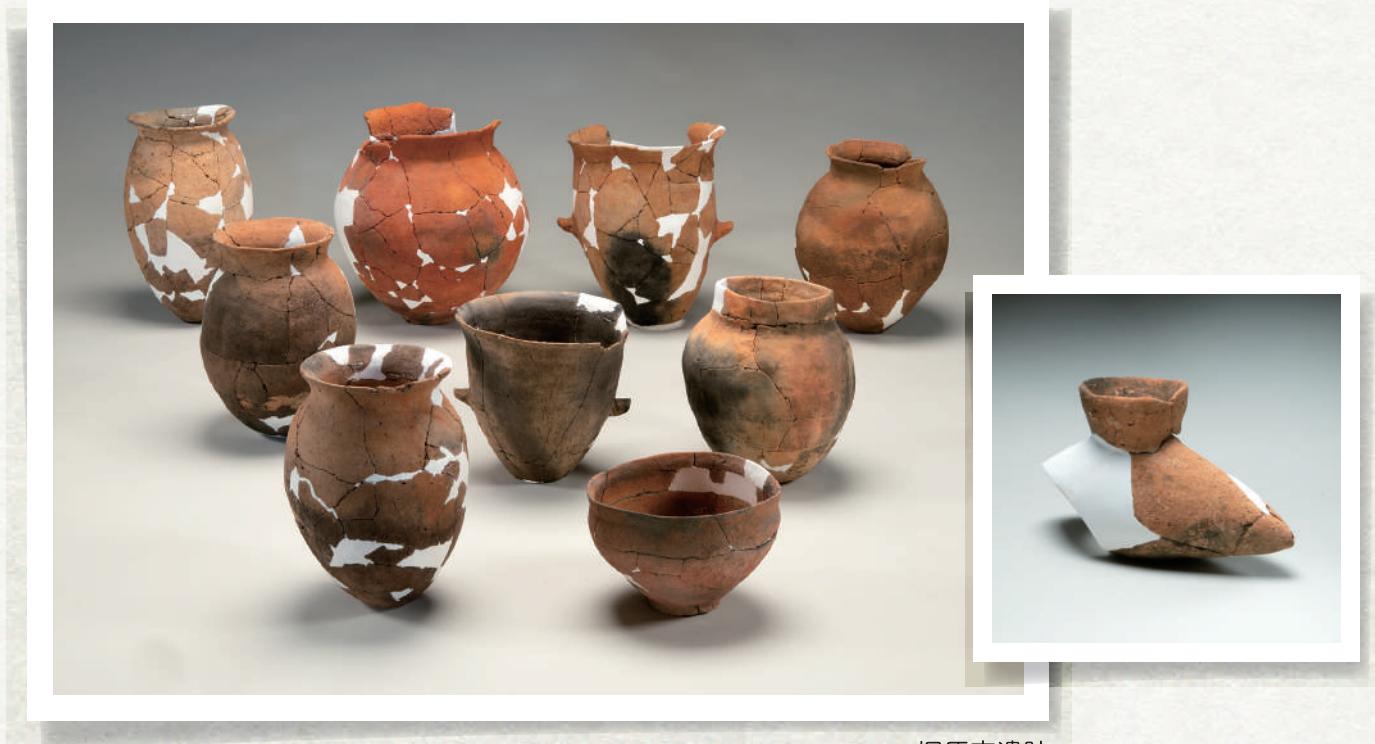
① 評議員 総数5名（非常勤）
② 役員 総数11名（常勤2名 非常勤9名）

理事長 1 ─ ─ 常務理事 1
 |
 | 理事 7 (非常勤)
 | 監事 2 (非常勤)

③ 事務局 総数46名（うち県派遣職員3名）
常勤役員2名
職員44名

IV 事業団の概要





塚原南遺跡



小久住遺跡

さいたま埋文リポート2025 年報45（令和6年度版）

令和7年10月31日発行

編集・発行 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

TEL 0493-39-3955 FAX 0493-39-3579

ホームページ



X



LINE



YouTube



当事業団は
2025年で
創立45周年を
迎えました。